交流の場を増やし、「和」を重視し「校友会」の活性化を図る

産業能率大学通教校友会 会長　持 木　宏

校友会員の皆様、こんにちは!　皆様におかれましては、お元気にお過ごしのことと存じます。校友会活動も校友会員の皆様のご支援ご協力をいただき、順調に発展しており心より感謝いたしております。

さて、3月22日（土）に自由が丘キャンパスの7号館で、支部長･事務局長会議が開催されました。お忙しい中、大学からは鬼木学長はじめ宮内ミナミ先生･榎戸部長もご参加いただき、誠にありがとうございました。また、産業能率大学校友会の小林会長、自由が丘産能短期大学校友会の山本会長もご参加いただき、誠にありがとうございました。

産業能率大学通教校友会の方針は、昨年の9月14日の全国交流会でもお話をしましたが、校友会会員同士及び校友会会員と在校生の交流の場を増やし、校友会の活性化を図ることです。特に重視するのは「和」です。校友会会員が仲良くなり是非、「生涯の友」を作りましょう。また母校の発展にも寄与したいと思います。入学者を増やすために、校友会本部も何かサポートをしたいと思います。具体的には今後の役員会、合同部会の全体会議で検討したいと思います。校友会員の皆様におかれましては、ご家族･ご友人･職場等で短大･大学の通信教育を検討されている方に是非、自由が丘産能短期大学･産業能率大学をご紹介して頂ければ幸いです。

今後の計画では、新支部設立で、戦略的に南九州地区･四国地区を設立に向けて、本部が中心になりサポートをします。また岐阜地区からも相談が来ております、富山地区からは申請書が届いております。然し、申請書を提出したからと言って承認されるとは限りません。地域の卒業生の人数や会の永続性なども加味します。また長年、休眠状態であった千葉支部が、石崎新支部長のもと5月6日に総会を開催する事ができました。東京支部も夏頃に総会を開催する予定です。長野支部においても今年度中に総会を開催したいと思います。来年度の代議員会は宮城県の開催で決まりました。再来年には、都内で全国交流会を開催する予定です。

最後になりましたが、校友会会員の皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

プロフィール

◎住 ま い　埼玉県さいたま市
◎趣　　味　旅行、沖縄音楽鑑賞
◎卒業年月　2001 年 3 月
◎座右の銘　人事を尽くして天命を待つ
◎職　　業　自営業

上野陽一先生とご著書

産業能率大学　学長　鬼 木 和 子

新たな年度を迎え早初夏の候、校友会の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。3月の学位授与式会場では、昨年に引き続き、卒業生と校友会の方々との対面での交流機会をもっていただき誠にありがとうございました。今年は多数の卒業生の参加がありましたので、期待以上の成果があったことと存じます。今後とも引き続き宜しくお願い申し上げます。

さて、皆様ご存じの通り、創立者上野陽一先生は、その生涯において、87冊の著書を発行され、私たちの知識･産業社会に大きな影響を与えたことは言うに及ばずですが、上野しげ先生は、その著書なくして本学開学はなかったことを「（上野はその）頭とクチとペンとでよくかせいでくれました。そのお金で彼は自分の後継者を作るための産業能率短期大学を設立いたしました」[1] と綴っていらっしゃいます。

僭越ながら、上述に関連して陽一先生の代表作を挙げますと、『心理学通義』（1914）と『能率ハンドブック』（1941）になりましょう。『心理学通義』は、500頁にも及ぶ大作であり1942年までに65版を重ねたロングセラーでありました。『能率ハンドブック』につきましても、「今でこそ経営管理関係のハンドブックは数多いが、当時これだけの集大成は、むろん例がなかった」[2] とありますように、戦後も長くビジネス界の必読の書であったことが窺われます。どちらの大著も領域固有の抽象度の高い難解さとは真反対の、本学の建学の精神に繋がる「生きた」良書であったことは皆様も大きく頷くところと存じます。

この度は、浅学にも陽一先生のご著書を話題に致しましたが、幾重にも絡んだ糸を解くように関心尽きない思いであります。今年度、本学新設科目として『能率の考え方と本学での学び』が開講されたことも相俟って、皆様と共に探究を続けることができれば幸いに存じます。

結びに、校友会の皆様のますますのご活躍と校友会活動のさらなる充実を心より祈念しながら、持木会長はじめ、役員の皆様、会員の皆様には引き続き本学へのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

引用文献：
[1]産業能率短期大学（1957）
『能率道：上野陽一追悼碌』
産業能率短期大学
[2]産業能率短期大学編（1967）
『上野陽一伝』　産業能率大学出版部

母校創設者 上野陽一 先生